

---

# あなたの言葉

よんこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あなたの言葉

### 【コード】

N9696N

### 【作者名】

よんこ

### 【あらすじ】

あなたの言葉で、不意にわたしは動揺した。

あなたは言った。自分たちが生きる意味。自己とは。これからの目標。その他もろもろ。

実際にあなたが何を話したのかは、正直言つてほとんど覚えてない。人はみんな苦しみながら成長していくんだ、とか、苦しみながら生きてきたから今の自分があるんだ、とか、わざわざ今さら言われなくても、どこかで1度や2度は必ず聞いたことがあるような、そんな話。

なのに、なんでだろう。話し方がうまかったのかも知れない。あの人も自身も問題を抱えていたから説得力があつたのかもしれない。とにかく理由はわからなかつたんだけど、なんだか揺り動かされた。

なんて言えはいんだろう。心の奥底の、他人だけじゃなく、自分ですら手の届かない部分をぎゅむって捕まれた気分。

今まで誰にも見せることはないだろうな、自分で直視することもないだろうな、別に隠すわけでも鍵をかけて閉じ込めるわけでもないけれど、今までもこれからもずっと独りぼっちなんだ、なんだかさびしいな、いいんだいいんだ、諦めちゃったんだよそんなこととつくに、一生外に出れるわけないんだ、出る勇気もないんだ、出たつてなんにもいいことなんてない、奥のじめつとした日の当らない真っ暗なところでそっとしておいてくれよ、放っておいてくれよ、誰にも、自分でも、どうにかすることなんてできないんだよ、っていう、そんな部分。

そんな部分があるってことに、自分でもほとんど気づかないのに言いあてられた気分。暗い暗い洞窟のなかでひっそりうずくまっていたのに、実は洞窟の奥の壁に穴があいていて、背中をのぞかれていた気分。やめてそれ以上言わないでお願いって思っても、聴き入っ

ちやう自分がいた。それでもうなんだかわけのわからないうちに涙が出てた。あわてて拭いたけど、もう涙腺緩みっぱなしで、とめどなく涙があふれた。

なんでだろう。別に悲しいわけでもないのに。それとも悲しいのかなあ？ 辛いのかなあ？ なんだかよくわからなくなってくる。

そもそも、生きてる時点で苦しみなんていうのは当たり前に感じるもので、楽しい幸せだって感じることも少ないのが普通で、いちいち悲観的になってたら世の中で生きていけないじゃないか。苦しむのが人生。もがいてももがいてもそれで死んでいく。ただ、その中でたまにきらりと光る楽しい時間。それだけを頼りに生きていけばいいじゃないか。おいしいケーキが食べれたとか、可愛いノラ猫と戯れたとか、それで十分じゃないか。別に不満なんてないよ。人の裏切りとかトラブルなんてない方がおかしいんだよ。不安なんてものは感じて当然なんだから、別に大丈夫だよ。

そう思ってたのに、なんで今こんなに動揺してるんだろう。

なんだかね。素っ裸のままお風呂からあがったら見知らぬ男の人と鉢合わせしちゃったみたいなの、そんな気分なんだよね。

ひゃあああああああああああああああああああ、  
なんでなんで、うえっ！？ ちょ、うわっ、まってやめてどうして！？ はわわわわわわ！！ いやあああああああああ！！ っ  
て気分。

まあ、2、3日すれば収まるよ。こういうのは。あとになって、そういえばそういうこともあったなあ、懐かしい、って思えるようになるよ。今はだいたいあわわわしてるけど。別に暗い気分なわけじゃないんだ。ただ、私の中にある感情が大きな鍋に詰められて、おたまでぐるぐるぐるかき混ぜられちゃった、みたいなのそんな感じ。

普段はこんな気分にはならないけれど。私も人間だから、こんな

風につまらない話をつらつら考えあぐねることだってあるんだ。

ほんと、今だけはこうさせて。きつと明日からはバイトとか課題とかテストとかで忙殺されて、こんな気分にはならないだろうから。今だけ、今だけはこのままでいさせて。

なんだか、今の気持ちはすごく大切にしなきゃいけない気がするんだ。

(後書き)

共感してくれる人がいるのかどうかわからないけれど、読んでくれたひとがいたらありがとうと言いたい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9696n/>

---

あなたの言葉

2010年10月9日15時29分発行